

東北大震災支援対策本部ニュース

16日、松山、乃美、守屋で対策本部会議を行い、当面、下記の支援を行うことを決めました。県連の花岡事務局長（福山医療生協から出向）が18日、宮城県の坂病院へ向かいます。福山医療生協で研修した望月先生の福島病院も大被害を受けて、「一瞬、死ぬかと思った。病院はライフラインが止まり、全く機能していない」と県連にメールを寄せました。吉國先生も「シンガポールから毎日、インターネットでNHKニュースを見ている。国際赤十字を通じてカンパしたとメールがありました。」

今回の震災は神戸震災の時のように限られた地域ではなく、東北の日本海側が壊滅で、広域の支援が必要で困難があります。また、津波で、すべて流されたという、家に少しでも、物を取りにいけなかったことが拍車をかけています。原発も追い打ちをかけています。

1、職員への義捐金の再確認

職員に1ヶ月の給与手取りの1日分を目安にカンパを要請すること。そのカンパについては、すべて全日本民医連、日本医療福祉連合会を通じて送金すること。

2、福山医療生協では支援物資購入資金を捻出すること。

19日の理事会で50万円を提案し、必要であれば更に検討すること。

3、事業所や組合員へのカンパ要請をする。

あらゆる会議の場でカンパ要請を行う。また、街頭募金も引き続き検討する。街頭募金では市民も医療生協なら安心してカンパを寄せられると思います。これらのカンパもすべて送金します。

4、支援物資の収集について。

現時点では、運搬ルートが限られており、自力で持っていくしかありません。民医連や医福連、行政の情報を得ながら、発信したいと考えます。現地で水、食糧、衣料品がないと報道されて気をもみますが、情報収集につとめたいと思います。

5、人的支援について、現地支援者を募集します！

全日本民医連で、27人乗りバスが定期運行されることになりました。

当面19日（土）～25日（金）まで毎日運行されます。東京まで新幹

線で行きます。旅費は医療生協が負担します。